小児看護 4 月号　第 45 巻第 4 号(通巻第 568 号)　2022 年 4 月 15 日発行(毎月 1 回 15 日発行)
ISSN 0386-6289

小児看護 4

THE JAPANESE JOURNAL OF CHILD NURSING, MONTHLY

Vol.45 No.4 APRIL
2022

発熱をもう一度考える

連載

児童養護施設の看護実践

児童養護施設における課題と展望

へるす出版

連載

心が歌えば、世界が揺れる

佐藤聡美 Sato Satomi
聖路加国際大学公衆衛生大学院准教授

第12回 野遊びの春

春は新しい出会いに満ちている。それが楽しみな人もいれば，不安な人もいる。相手になんて声を掛けたらよいか戸惑う人もいる。英語の教科書には“What's your hobby?”（趣味は何ですか？）と出てくるが，ネイティブはそのようなフレーズを使ったことはないという。そういえば，私も日本人に日本語で「趣味は何ですか？」と聞いた覚えがない。せいぜい「休みの日はどうしている？」や「好きなことは何ですか？」と尋ねるぐらいだろうか。

最近，私は本気で余暇活動に取り組んだほうがいいと思い始めている。小児がんの子どもたちの復学支援や就労支援をすればするほど，趣味や余暇活動の大切さが際立ってくる。好きなことに没頭する。気の置けない仲間と過ごす。三々五々も大歓迎。特に病気経験者は療養に目が向きがちだが，真剣に遊んだほうがいい。

小児がんの好発年齢は3歳から5歳だ。近くの公園にお弁当を持って出かけてもいい。海を眺めに行くだけでもいい。菜の花の咲く堤防を歩くのでもいい。レジャー施設に行くことだけが遊びではないのだから。

就職先の内定と病気が同時だった人もいる。期せずして，医療者と出会う春となった。大学3年生にがんを発症した男性は，絶望の淵に立たされて，内定を辞退した。AYA世代の，就職直前に診断が下った人たちの苦しみは計り知れない。治療を開始しても，同級生は就職活動やアルバイトに勤しんでいると想像すると，どうして自分だけがこんな目にあうのかと，涙がこぼれてくるという。自分だけが病院の箱の中にいて，世界から取り残されているように感じてしまう。

未就学のときにがん治療をした子どもたちは，就職までに時間があるため，大きなカーブを描いて軌道修正ができるイメージだ。一方，大学生で罹患すると，就労までに時間がない。車は急には曲がれないように，彼らが進路変更をするには時間がなさすぎる。大学生の場合は，入院治療中に内定保留の企業との交渉や，辞退した内定よりも魅力的な社会参加ができるように，キャリア支援を積極的に行わなければならない。また，治療しながら就職先を検討していくことが，漠然と退院する不安を軽くしてくれるはずだ。

資料の整理をしていると，どこかの研究グループのアンケート調査が出てきた。小児がん経験者の最たる不安は，再発だという身も蓋もない結果である。私はだからこそ，復学や就労で頑張りながらも，好きなことに没頭する余暇活動も重視する。子どもたちは常に再発や学業，就労の心配をしながら人生が過ぎていくとしたら，命が助かって本当によかったと思うのだろうか。子どもたちに人生をくれるのは，家族や仲間である。この春は，好きなことをリストアップして，今から家族で楽しんでみてはいかがだろうか。

佐藤聡美
さとう・さとみ
聖路加国際大学公衆衛生大学院准教授。博士。臨床心理士，公認心理師。富山県出身。米国のBellevue Community Collegeを卒業後，お茶の水女子大学大学院修了。国立成育医療研究センターにおいて小児がんの臨床と研究に携わる。小児がんの子どもと家族を支えるエゴノキクラブを主宰。お茶の水女子大学特任講師を経て，現職。著書『看護師と家族でかなえる最高のサポート：子どもの入院から就学・就労まで』。工作好きな一児の母。

©へるす出版